

## 部門賞 受賞者の紹介



### 環境工学部門功績賞を 受賞して

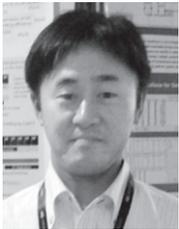
佐藤 春樹  
慶應義塾大学理工学部  
システムデザイン工学科

この度は誠にありがとうございます。人類は自分に快適な環境を創造しても、自然にとっても良い環境を創造することは容易でないようです。それでも50年前の公害まっただ中の時代を思い浮かべるとき、今は随分綺麗な水と空気を取り戻し、静かで清潔で、快適で安心な環境を築いています。そんな時代に貢献した環境工学委員会の最後の幹事と、部門としてさらにグローバルでレジリエントな視点からの環境創造に応えるべく最初の部門幹事を続けて務めさせて戴いた4年間の最初の係わりです。

環境工学部門は、人と自然の両方に良い環境を実現することを目標に平成元年（1989年）に誕生致しました。平成と共に歩んでいます。

2005年に登別温泉で、専門の異なる技術委員会の皆様と会食をしながら語り合う第1回環境工学サロンを開催させて頂きました。原子力発電所の話題でホットな会合でした。4年目のサロンでは、「調和」と「先進サステナブル都市」の概念について語り合い、先進サステナブル都市WGが設置されました。お陰様で部門長を仰せつかった2009年度には、その概念をベースに沖縄で環境工学総合シンポジウムを、横浜で国際ワークショップIWEE2009を開催することができました。

自然環境と調和して持続できる循環型社会システムを構築することが部門の使命と思っています。小さいながらも私の部門への功績を認めて頂いたことに深く感謝します。至福の喜びです。



### 環境工学部門技術業績賞を 受賞して

坂東 茂  
一般財団法人 電力中央研究所

この度は、環境工学部門技術業績賞を受賞することになり、まずは部門の皆様方をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。今回、技術業績賞の対象となったのは、デマンドレスポンス（DR）に関する一連の研究であり、2つの方向性の研究で構成しております。1つ目は国内外のDRの取り組み状況の動向調査や、

DRの電力系統上における費用便益分析といった、DRの社会的な影響力を計測する研究であり、2つ目はDRにより複雑化する料金体系に対応して需要家に最適な設備運用を提案するツール開発です。

学生時代は熱流体工学をベースにして、研究室の中で実験と数値計算に没頭していた私ですが、最近では工場等のエネルギー管理部門の方へのインタビュー等、研究所の外で人と接する研究をする機会が増え、以前とは異なる面白さを感じる反面、計算や実験から遠ざかる感覚が寂しくもありました。今回の受賞は自分の技術面の研究の足跡として大変うれしく、励みとしてさらに技術面も精進いたしたく存じます。皆様のご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。